**通級による指導実践事例　No.１**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 個別の指導計画に  おける短期目標 | | ・コミュニケーション場面での自分の傾向を知り、自分の良いところに気づく  ・自分の意見を伝えることができるようになる | | | | | | |
| 通級による指導  開始時における  生徒の状況 | | 学　年 | ２年 | | | 指導時期 | ４月～９月 | |
| ・学校の活動には積極的に参加するが、コミュニケーションに苦手意識があるために必要なやり取りができず、集団内での役割が十分に果たせないことがある  ・自分に自信がなく、自分の気持ちや考えを表出することに困難を感じている | | | | | | |
| 関連する  自立活動の内容 | | 区　　分 | | | 内　　容 | | | |
| 心理的な安定 | | | 状況の理解と変化への対応 | | | |
| 人間関係の形成 | | | 他者とのかかわりの基礎 | | | |
| コミュニケーション | | | 言語の受容と表出 | | | |
| 本事例のキーワード | | 自己表出　自己肯定感　集団　グループワーク | | | | | | |
| **【指導の具体的な様子】** | | | | | | | | |
| 学 習 内 容 | | | | 指導上の留意点（場面・内容） | | | | 成果・課題・次段階に向けた取組 |
| 第　一　段　階 | 第一段階の目標 |  | | **①について**  ・対人場面での自分の傾向を客観的に見ることができるように、ソーシャルスキルや認知傾向といった観点で自分を振り返ることができるチェックリストを用意する。  **②③について**  ・対人場面における自分の傾向に、体験を通して気づくことができるよう、グループワーク終了後に、「行動に対する気づき」「感情に対する気づき」を出し合う | | | | ・チェックリストの結果や、グループワークの中で、「人に対する信頼感が低い」、「期待される行動は分かっているが行動に移すことができない」といった自分の行動や考え方の傾向を整理することができた  ・グループワークでは、自分の意見があっても黙って頷くことが多く、自分の意見や気持ちを表出することが課題として上がった |
|  |  | |
| **対人場面での自分の傾向に気付く** | | |
| **①行動傾向・認知傾向を知る**  ・自己理解のためのチェックリスト  **②グループワークⅠ**（２人～４人）  ・他者と協力して一つの絵を描く  *【参考Ａ】*  **③グループワークⅡ**（２人～４人）  ・コミュニケーションゲーム | | |
| 【第二段階に向けて】  ・「自分のよさ」に気づき、自信を持つ  ・自分の意見を表出し、それが認められる経験を増やす |
| 第　二　段　階 | 第二段階の目標 |  | | **①②について**  ・「聞き上手であること」に自信を持つことができるように、「聞き手の重要性」が実感できるワークを用意するとともに、ワークの最中やワーク後の振り返りの際に「聞き手の重要性」を言語化する。  ・発言への意欲を養うため、発言内容の良い部分をフィードバックするよう努める | | | | ・「コミュニケーションは、話すことだけでなく、上手に聞くことも大切であることがわかった」という発言があった  ・グループの中で、自身の発言内容が他者に認められ、肯定的に評価される経験が重なるにつれて、自ら発言することが増えた。 |
|  |  | |
| **自分の良さに自信を持つことができ**  **る** | | |
| **①グループワークⅢ**（２人～４人）  ○コンセンサスゲーム*【参考Ｂ】*  ・価値観の違いを知る  ・集団における合意形成の経験  **②グループワークⅣ**（２人～４人）  ○意思伝達ワーク*【参考Ｃ】* | | |
| 【第三段階に向けて】  ・他者とのコミュニケーションにおいて「聞き上手」であることを意識しつつ、自身も発言することを楽しむことができるような機会を設ける |
| 第　三　段　階 | 第三段階の目標 |  | | **①について**  ・「聞き上手」な面が発揮されるように、本人が共感をしやすいテーマを設定する  **②について**  ・自信を持って、自分の強みを説明できるよう、ワークの中で見つけた「自分のよいところ」や「仲間の良いところ」を言語化する | | | | ・自分の良いところを客観的に分析し、言語化することが出来た  ・グループで話し合う場面では、他者の発言を受け入れながら自分の意見を言うことができた |
|  |  | |
| **自分の良さを活用する** | | |
| **①グループワークⅤ**（２人～４人）  ・テーマに沿ったフリートーク  **②グループワークⅥ**（２人～４人）  ・互いの「良いところ」探し | | |
| **【通級による指導の成果（生徒の変容）】** | | | | | | | | |
| ・10月以降、修学旅行のグループ活動をどうするかについて話し合った際には、自分のやりたいことをグループ内で発言  し、仲間と意見を調整している様子が見られた  ・11月に行った三者懇談では、「修学旅行について班で話し合うのがすごく楽しい。今まで経験したことがない」という  発言があった | | | | | | | | |

**通級による指導実践事例No.2**

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 個別の指導計画に  おける短期目標 | | 自分の苦手なことを知り、周りに援助を求めることができる | | | | | |
| 通級による指導  開始時における  生徒の状況 | | 学　年 | ２年 | | 指導時期 | ６月～12月 | |
| ・新しい環境になれるのに時間がかかる  ・感情をコントロールするのが苦手である  ・他者との関わりに自信がなく、必要以上に心配してしまう。 | | | | | |
| 関連する  自立活動の内容 | | 区　　分 | | | 内　　容 | | |
| 健康の保持 | | | 障がいの特性の理解と生活環境の調整に関すること | | |
| 人間関係の形成 | | | 自己の理解と行動の調整に関すること | | |
| 本事例のキーワード | | 自己理解、ヘルプメッセージ、合理的配慮 | | | | | |
| **【指導の具体的な様子】** | | | | | | | |
| 学 習 内 容 | | | | 指導上の留意点（場面・内容） | | | 成果・課題・次段階にむけた取組 |
| 第　一　段　階 | 第一段階の目標 |  | | **①②について**  ・教員も生徒と同じワークシートを  使用して作業を行い、生徒が手順を  イメージしやすいようにする  ・通常の学級での支援の一助とする  ため、クラス担任と成果物を共有  する | | | ・気分が高揚した時や、焦ったときに感情のコントロールが難しくなるが、「友人から声をかけてもらえると気分が落ち着いた気がする」と気づきを言葉にした  ・「声をかけてもらうためには、自分のことを友人に知ってもらうことが必要である」と述べた |
|  |  | |
| **これまでの「自分」を知る** | | |
| **①「わたしのトリセツ」**  ・自画像を描いたワークシートに、  「自分を表すキーワード」を記入  する*【参考Ａ】*  **②「カラーパワーグラフ」***【参考Ｂ】*  ・年表が記載されたワークシートを  用いて、生まれてから今までの人  生における気分の浮き沈みを、折  れ線グラフで表す  ・補足説明として、気になる出来事  等をキーワードで加筆する | | |
| 【第二段階に向けて】  ・自分のことを言葉で説明する  ・教員以外の者（クラスの友人等）に  自分の意見を表出する機会を設ける |
| 第　二　段　階 | 第二段階の目標 |  | | **①について**  ・本人が話しやすいと感じる友人を含む数人を、通級指導教室に招く  ・「気分が高揚した時の感情のコントロール」について、後日の振り返り  の際に、自分の様子を客観的にみる  ことができるように、ビデオカメラ  等で記録しておく  **②について**  ・本人だけでなく、参加者全員が発  言するように促し、本人が発話し  やすい雰囲気をつくる | | | ・ジェスチャーゲームでは、感情のコントロールができない状況は発生しなかった  ・友人に自分の苦手なことを伝え、友人から肯定的な言葉を受けたことで、「安心できた」と述べた |
|  |  | |
| **身近な人と接する「自分」を知る** | | |
| **①集団における「自分」を知る**  ○ジェスチャーゲーム（5人～10人）  ・集団で盛り上がる状況において、  自分がどのような様子（気分）に  なるのかを知る  **②身近な人に「自分」を語る**  ・クラスやサークルの友人を相手に、  「自分」を説明する機会を設ける | | |
| 【第三段階に向けて】  ・身近な人に自分を伝えることができ  たため、初対面の人にも自分のことを伝える機会を設ける |
| 第　三　段　階 | 第三段階の目標 |  | | **①について**  ・「他者に見せること」を意識した  表現となるよう促す  ・第一段階で作成した「わたしのト  リセツ」と比較して、通級指導開  始時点の自分とのちがいを意識さ  せる  **②について**  ・次年度の新クラスや校外学習での挨拶など、今後、本人が経験する機会を想定して場面設定する | | | ・通級による指導の開始時点の自分と比べて、「できること」、「やりたいこと」、「苦手なこと」を、明確かつ、より多く説明することができた  ・伝える相手（新年度のクラスの友人や、校外実習先の担当者）によって、「伝えるべき内容」や、「伝え方」に違いがあることに気づいた |
|  |  | |
| **初めての環境で「自分」を伝える** | | |
| **①「わたしのトリセツ」の追記**  ・第一段階で作成した「わたしのトリセツ」に、自分の「良いところ」や「苦手なこと」、「困ったときに助けてほしいこと」等を追記する  **②「トリセツカードの活用」**  ・カードを活用してもちあじを伝え  ながら、配慮してほしいことを相  手に説明する | | |
| **【通級による指導の成果（生徒の変容）】** | | | | | | | |
| ・対象生徒は、これまでの失敗経験から自分の特性について他者に知られたくないと言ってきた。しかし、失敗を防ぐためには周囲の協力が必要だと考えて校内外の発表活動に参加し、自身の特性や経験について他者に語るようになった。  ・他者に開示することで適切な支援が受けられることを学び、自分について他者に伝える意欲が高まった。段階を経るに連れて本人が「自分のことを知ってほしい」対象として列挙する人が身近な人からそうでないひとへと拡がった。 | | | | | | | |

**通級による指導実践事例No.３**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 個別の指導計画に  おける短期目標 | | ・行動に優先順位をつける際の基準を意識できる  ・自分に合ったスケジュール管理の方法を見つけて継続する | | | | | | |
| 通級による指導  開始時における  生徒の状況 | | 学　年 | ２年 | | | 指導時期 | １０月～３月 | |
| ・言葉を字義通りに受け取ってしまう傾向があり、相手の意図や真意を汲み取れない時がある。  ・持ち物、時間、スケジュールの管理が難しい。自分の状況に即したスケジュールを組むことが苦手で、生活がうまく回らなくなることがある。  ・各教科の定期考査の結果からは、学習上のつまずきはみられない。 | | | | | | |
| 関連する  自立活動の内容 | | 区　　分 | | | 内　　容 | | | |
| 健康の保持 | | | 生活のリズムや生活習慣の形成 | | | |
| 心理的な安定 | | | 状況の理解と変化への対応 | | | |
| 本事例のキーワード | | 優先順位　スケジュール管理　忘れ物 | | | | | | |
| **【指導の具体的な様子】** | | | | | | | | |
| 学 習 内 容 | | | | 指導上の留意点（場面・内容） | | | | 成果・課題・次段階に向けた取組 |
| 第　一　段　階 | 第一段階の目標 |  | | **①②について**  ・自分が関わっている場と、そこでの行動を個々に考えるのではなく、１日のつながりの中で捉えるよう示す  **③について**  ・授業に必要なものや提出物の有無を明記し、できていることと、できていないことを明確にすることで、自分の傾向に気づくよう促す | | | | ・24時間テーブルにより、１日の予定をつめこみすぎていることに気づき、今の自分に必要なことを取捨選択する必要を自覚できた  ・授業に必要なものを書き出すことにより、「忘れ物が多い教科」、「忘れ物がない教科」があり、その原因を考察することができた |
|  |  | |
| **生活の可視化** | | |
| **①自分関連図**  ・自分がつながっている社会を図式  化する*【参考Ａ】*  **②１日（24時間）の行動**  ・行動に費やす時間の確認  ・24時間テーブルの作成*【参考Ｂ】*  **③授業に必要なものを書き出そう**  ・時間割表に各教科の授業で必要なもの（及び課題の有無）を記入する  *【参考Ｃ】* | | |
| 【第二段階に向けて】  ・自分にとって実行可能なスケジュールを立てることや、スケジュール管理の方法を考えることが、これからの学習課題である |
| 第　二　段　階 | 第二段階の目標 |  | | **①について**  ・情報の整理の仕方について、様々な方法があることを知るために、グループ学習で行う  **②について**  ・日常生活で実際にスケジュールを立てる力に繋げるために、実例を用いてスケジュールを立てる練習を行う | | | | ・「自分は目先のことに囚われてしまいがちである」という気づきを得ることができた  ・「全体と限界を見て、すべき目的を見失わないことが大切である」という発言があった |
|  |  | |
| **スケジュールを立てるコツを知る** | | |
| **①グループワーク**（２人～４人）  ・情報整理ワーク  ・手順を考えるワーク*【参考Ｄ】*  **②スケジュール作りのワーク**  ・アルバイトを辞めるまで  ・受験カレンダー作り  ・冬休みの旅行の行程 | | |
| 【第三段階に向けて】  ・様々なツールを試して、自分に合ったスケジュール管理の方法を考え、実践する |
| 第　三　段　階 | 第三段階の目標 |  | | **①について**  ・スケジュール管理の方法について、いくつか例示し、生徒が興味を示した方法で取組む  **②について**  ・提出物の期限を守るために、課題内容と提出期限という２つの要素を管理するのだということを意識させる | | | | ・「スケジュール帳よりスマートフォンのアプリで通知機能を活用する方が自分に合う」という発言があった  ・冬休みなど長期休業中に複数の課題が集中すると、管理しきれなくなってしまったため、もう一度、管理方法の確認や整理をして使いこなしていくのが今後の課題である |
|  |  | |
| **スケジュールの管理方法を決めて実践する** | | |
| **①様々なスケジュール管理ツールを使ってみる**  **②提出物を期限どおりに提出するためのアイディアを出す** | | |
| **【通級による指導の成果（生徒の変容）】** | | | | | | | | |
| ・スケジュールの詰め込み過ぎで回らなくなっていた日常であったが、行動の取捨選択を考えられるようになったこと  で、余裕をもって毎日を送ることができるようになった。  ・スケジュールを管理することで、課題などの提出をあきらめずに最後までやり遂げようとする意欲が見られるように  なった。 | | | | | | | | |

**通級による指導実践事例No.４**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 個別の指導計画に  おける短期目標 | | 身近な友達や教員に自分の気持ちを示す | | | | | | |
| 通級指導開始時に  おける生徒の状況 | | 学　年 | ２年 | | | 指導時期 | ２学期 | |
| ・場面ごとの自分の気持ちを振り返ってまとめることが難しく、感想を述べたり、作文を書いたりすることに苦手意識がある  ・他者とのコミュニケーションが苦手で、自分から関わりを求めることが難しいが、集団の中では、自分のペースで過ごすことができている  ・卒業後は４年制大学への進学を希望している | | | | | | |
| 関連する自立活動の  内容 | | 区　　分 | | | 内　　容 | | | |
| 健康の保持 | | | 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること | | | |
| 人間関係の形成 | | | 他者とのかかわりの基礎に関すること | | | |
| 本事例のキーワード | | コミュニケーション　他者とのかかわり | | | | | | |
| **【指導の具体的な様子】** | | | | | | | | |
| 学 習 内 容 | | | | 指導上の留意点（場面・内容） | | | | 成果・課題・次段階に向けた取組 |
| 第　一　段　階 | 第一段階の目標 |  | | **①について**  ・感情を表すキーワードは生徒が考えたものを使う  **①②について**  ・教員も生徒と一緒に出来事の連想に取組む  ・生徒が発言するときは、教員は傾聴し、生徒の言葉を肯定的に受け止めるように心がける  ・ワークシートに生徒のことばを書き出し、生徒がことばに詰まったときには教員が質問を投げかける形式で対話を進める | | | | ・①について、感情を表すキーワードがなかなか思い浮かばなかった  ・「楽しい」「悲しい」「悔しい」などのキーワードをカードに書いて選択させると、関連する出来事を具体的に話すことができた  ・②について、自分が困っているときに友達が関わってくれたことに気づき「うれしかった」と自分の気持ちを述べた |
|  |  | |
| **感情を頼りに出来事を整理する** | | |
| **①「感情」から出来事を振り返る**  ・感情を表す言葉をもとに、学校生活における出来事を連想する  ・出来事に関わりのあった友達や教員を連想する  **②日常生活での他者との関わりに気づく**  ・教員との対話を通して、①で整理した出来事で「今、落ち着いて考えたら気づいたこと」を考える | | |
| 【第二段階に向けて】  ・生徒の「困っているときに友達が関わってくれた」という気づきを捉え、他者に気持ちを伝えることを見すえて指導を行う |
| 第　二　段　階 | 第二段階の目標 |  | | **①について**  ・クラスの授業や部活動等での周りの生徒とのかかわりを、通常学級の授業担当者と連携して把握する  ・本人のことばを基本に、教員が普段の様子について補足しながらワークシートに書き出す  **②について**  ・これまでの学校生活で困ったことを思い出して挙げる  ・ヘルプメッセージの発し方について、授業の場面や、人数規模などをふまえた対応方法を考える | | | | ・「困ったこと」について考える過程で「スケジュール管理が苦手で、授業場所の変更や時間割の変更で戸惑うことが多い」と述べる  　（通級による指導の時間にも遅刻したことが複数回あった）  ・「困ったときに助けてもらったら、きちんとお礼を言えるようにしたい」と述べる |
|  |  | |
| **身近な人間関係を把握する** | | |
| **①学校生活における友達とのかかわりを整理**  ・学校生活で、どのような場面に、どんな友達と関わっているのかを把握する  **②困ったときにはどうしたらいいかを考える**  ・困ったことがあって戸惑ったときに、どんなヘルプメッセージを発するとよいのかを考える | | |
| 【第三段階に向けて】  ・通常の学級での授業等で、困ったときにヘルプメッセージ発することができているかを確認する |
| 第　三　段　階 | 第三段階の目標 |  | | ・本人が苦手に思っていることや、通級による指導をとおして学習した「ヘルプメッセージの発し方」を学年団の教員で共有する  ・通常の学級や部活動等での生徒の様子を担任・授業担当者と通級による指導担当教員で共有する  ・通常の学級での出来事等を振り返り、できたことや、次の機会に頑張ることをワークシートに記録する | | | | ・困ったことがあったときに助けてくれた友達に対して、「ありがとう」と言葉で伝えることができた  ・本指導を通して、生徒が「スケジュール管理が苦手」ということに気づきがあったため、今後の課題として検討する |
|  |  | |
| **相手に気持ちや考えを伝える** | | |
| ・通常の学級における出来事を「誰と」「何をして」「どんな気持ちになって」「どのように伝えた」という観点で振り返る | | |
| **【通級指導の成果（生徒の変容）】** | | | | | | | | |
| ・本人もがんばれたという達成感を得ている。“自分から”友達のところへ昼食を食べに行くことができたといった自発的な行動に繋がってきている。  ・通常の学級や、部活動担当者、周囲の友達から「以前よりも笑顔や反応が増えた」という報告があった。 | | | | | | | | |